

うんがいい

「三毛猫の雄は珍しいから幸運の象徴っていうのは、例えばネイティブインディアンのラビットシンボルが幸運を呼ぶお守りなのと一緒にのかな？」

「別にラビットシンボルは取りたてて珍しいものでもない。兎の手、というか足」

「なーんか残酷、三毛猫の雄も死んだ後も幸運を呼ぶかなあ？」

「そういう話ならそれはないだろう。だいたい三毛猫の雄は染色体異常で生まれやすいから虚弱だし。そんななかで強靱に生き抜いてきた雄三毛猫は正に幸運を司るシンボルだろう」

「むむ、そうなのかあ、困ったなあ。こうなるともって強力ですぐに効く幸運のお守りはないのかなあ」

「…って、確かに幸運のお守りはあまたあるけれども、効くものっていうのは、土台考え方からしておかしい」

「そりゃ、珍しいものを手にしたからその時点で幸運であって、今後それを手元に置いておくから幸運であり続けるわけでもないってことなのは、まあわかったということにしておく」

「だったら」

「だーかーらー、幸運を手元にぐいっと引き寄せんなにかはないのかっていうことを尋ねたい！」

「そう尋ねられたからって、そうそううまい答えがあるわけでもなし、いやまてよ…というも期待する？」

「する！ 期待は裏切られることもあるけどおおむね期待しておいて損はなし！」

「今日の意気込みはすごいなあ。でもそんなたいしたことでもないかもしれない」

「それは困る。すごいよく効く幸運のなにかをあたしは欲しているのだ！」

「けど、例えば、宝くじを買おうとしよう。これが必ず当たるようにするために必要なものがなになのか、考えてみよう」

「うん、まず、買わなきゃ当たらないから、先立つものが必要だねえ、お金とか買いに行く時間とか、買った宝くじを当選発表まで保管しておく場所とか、あ、そうそう宝くじ売り場も見つけておかないといけな」

「根本的だなあ、ま、そうだけど」

「うん研究しているんだよ。このところ冷蔵庫に保管して惨敗続き…」

「それは研究か？」

「そうだよ、宝くじの当たり易いイニシャルの人に買ってきてもらうとか、今年の恵方の売り場に行くとか。男性は、宝くじ購入キャリア5年以上、40代の会社員、イニシャルはT. Kさん。星座は魚座。女性は、キャリア5年以上、40代の主婦、M. Sさん、星座は魚座。取り敢えず魚座の人に頼もうかな」

「だんだん怪しくなってくるな。まずその当たりやすいイニシャルだけど、それはどういう統計に基いているんだ？」

「えっとお、確か一等、いや100万以上の高額の宝くじを当てた人のだったと思う。でも、それはちゃんと第一勧銀か宝くじの団体の調べだから元の情報に誤りはないと思うよ」

「でも、だからと言ってそのイニシャルだったら当たりやすいと考えるのは誤りだ」

「なんで、現に何度も当たっている人もいるのよお」

「でも、日本国内でメジャーな姓、例えば鈴木、佐藤、田中、山本、渡辺と上位5位を挙げてみたらほら、1位と2位はS、

じゃないか。そんな風にもともと多いイニシャルとか少ないイニシャルがあるから、それを考慮してみると結局あのイニシャルだから当たり易い、というのはなくなる」

「えーじゃあなんでそんな怪しい発表するのぉ？ だまされたよお」

「いや、あれは統計採れば出てくる話だし、ただそれで当たり易いか思うのは間違い。ちなみにさっきの順位は佐久間英氏の著作「日本人の姓」(1972)内でも出した順位。第一生命がその顧客から割り出した順位(1986)だと佐藤、鈴木、高橋、田中、渡辺、これも踏まえるとTも多そう。というか、宝くじを買った人のイニシャルの統計とそのときの枚数の統計とが入手できないことにはなんとも言えない」

「どういうこと？」

「だから、ある宝くじを全てT. Kというイニシャルの人だけが買っていれば絶対にその宝くじに当たる人のイニシャルはT. Kじゃないか、…そういうことはまあ有り得ないことだろうが」

「そりゃそうでしょう」

「でも有り得ないわけではない。確率論的に言えば試行回数を無限大にまで引き伸ばせばきつとそういう宝くじがあることになる」

「でもそれがどう宝くじの当たる幸運を引き寄せることと関係あるの！ つまり何度も買えってこと？」

「確かに、試行回数を増やすといずれは当たることになる。あるいは一回の1ロット全てを買い込めば当たりくじはすべて規定の枚数だけ発生する」

「あ、あの宝くじの裏に書いてある1ロットあたりの当選枚数とかの表のやつね」

「でもそうなるとそのロットのすべての外れくじもきっちり発生する」

「えーそんなんじゃ、きつと損するような感じがする。できるなら当たりくじだけとか、連番1つ買って1等前後賞を当てたいなあ」

「絶対当たりくじ買うということならお金をつぎ込めばなんともなるけれども、その半分以上は公共事業に寄付されたことに…あ、宝くじの製造コストとか販売店の取り分とかあるからあ…」

「なんにせよ半分以下しか戻ってこないでしょ？ なんで宝くじ当ててお金減らさないといけないうようっ！！」

「だから宝くじが当てれば運がいい」

「その運を良くしたいんだけどお」

「まず、当たる確率、期待値の高いものを選んでなるべく運の絡む要素が少ないものを選んで宝くじを買わないといけなね。でもだいたい宝くじって期待値は50%弱だからなあ」

「あー宝くじを買う気がしないよお」

「これのみすみすお金を半分以下にすることを防いでよかったよかった。幸運だね」

「そういうのって幸運？」

「幸運って思ったら、幸運になるよ」

「…ということは、不運？」

「……………」

おしまい

Maki Rouel 2000, 9, 28 since 2000, 3, 14

参考文献：今野紀雄著「図解雑学確率」ナツメ社